開先付き異形棒鋼 New J-BAR

J-BAR 杭頭補強筋溶接工事の参考事項

「杭頭補強に関する特記」より

1:使用材料のご確認

2: 杭頭部の標準納まり

基礎コンクリート強度 F c に対する J-BAR の 直線定着は、

通常標準サイズとして WSD390 の場合は 35d、WSD490 の場合は 42d としています。ただし、基礎コンクリート設計基準強度 (Fc)によって定着長を標準定着長より短くすることが出来ます。Fc 36 で WSD490

NewJ-BAR NewJ-BAR 面面J形溶接 両面J形溶接 フーチング下端 ※:中詰めコンクリート深さは 設計者により決められる。 ずれ止め 団は参考例である。 NewJ-BARの製品長は施工 誤差調整用の余長 20 mm を加 えた長さとする。 : 必要溶接長さ L : 20安倍技長で L1:実際に施工された溶接長(≧L) L1+ 2・L2≦L+ 20 D L2:施工誤差吸収用余長10mm以下 Lo:最小埋込み深さ

標準納まり図

の場合は33dとなるので設計者にご確認をしてください。

3:溶接方法は CO2 自動溶接です

溶接材料及び溶接技能者

4:溶接施工

5:検査

溶接の検査は外観検査が主なので、必ず本溶接する溶接工は、"JIS 検定資格"または"建築鉄骨溶接技量検定協議会の検定"のいずれか の溶接資格者で施工をしています。

6:J-BAR の配列

鉄筋の最小間隔「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(社)日本建築学会」等の規定(2.7d以上)と示されていますが、J-BARのところには基礎梁筋や柱筋が複雑に交差することで、J-BARの間隔が均等に本溶接されないため、早目に設計者へ J-BARの間隔問題のご確認をしてください。

7: J-BAR の定着形式

New J-BAR の曲げ加工は、日本建築学会「JASS5」に準拠して曲げ加工として対処しています。
■最後に、J-BAR の定着長と溶接長と本溶接の取り付け位置を設計者に質疑・回答を頂いた後に、
J-BAR の材料発注となりますので、余裕を考慮した工程を組んでください。





